

令和2年度第2回子ども・子育て会議 会議録

日時

令和2年10月20日(火曜)10:00～11:30

場所

流山市中央公民館3階講義室

出席委員

柏女会長・吉川副会長・中山委員・藪本委員
西原委員・岩田委員・手塚委員・橋本委員・田中委員

欠席委員

松本委員・松田委員・櫻庭委員・吉田委員

事務局

秋元子ども家庭部長・熊井子ども家庭部次長兼子ども家庭課長
青野子ども政策室長・倉本子ども家庭課主任主査
廣原子ども家庭課主査・北根子ども家庭課主事

傍聴者

なし

議題

- (1)第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて
- (2)その他
 - ・障害児福祉計画の報告
 - ・今年度の会議運営について

配布資料一覧

- 資料1:第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて
資料2:進捗管理シート(案)
参考資料1:子ども・子育て支援事業計画の達成状況の点検及び評価について

議事録(概要)

《事務局》

定刻となりましたので、只今から、令和2年度第2回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

(会議成立の報告)

次に会議の成立について申し上げます。附属機関の会議は、条例第5条第2項及び3項の規定により、委員の半数以上の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによるとされております。

本日の会議につきましては、委員14名中10名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

始めに子ども家庭部長の秋元よりご挨拶申し上げます。

《子ども家庭部長》

皆様おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。季節がだいぶ変わりまして、秋が深くなってまいりました。これからくる新型コロナウイルスとインフルエンザの流行にどう対応していくか対策を練っているところでございます。

9月議会が終わりまして、その中では、新型コロナウイルスによる影響で、市内においても虐待件数が増えているのではないかという話がありました。私共に対し、しっかり対応するよう議会の方から強く言われたところでございます。これにつきましても、次年度にむけて、しっかりと人員確保等を図ってまいりたいと考えております。

ハード面では、現在おおたかの森地区に建設中の児童センターが、来年3月末頃に完成予定でございます。内装工事業者も決まり、これから工事に入っていくところでございます。もう一つの南流山児童センターにつきましては、設計がまとまりまして、工事業者に入札の公募をかけているところでございます。保育所の整備と同時に、新しい児童センターにつきましても、子育て支援に力をいれていきたいと考えております。

本日この会議では、子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて、ご議論いただきたいと思います。皆様からご意見いただきまして、懸案となっております事業評価について、しっかりとしたものをつくっていききたいと思います。よろしくお願ひします。

《事務局》

それでは、柏女会長より議事の進行をお願いいたします。よろしくお願ひします。

《柏女会長》

朝からお集まりいただきありがとうございます。

今年度、第2回子ども子育て会議を開催したいと思います。事務局から、第2期子どもを育み計画の事業評価の説明をしていただいたうえで、ご質問ご意見を頂戴しながら、進めていきたいと思っています。では、事務局の方から資料1、2に基づいてご説明をお願いしたいと思います。

《事務局》

(説明) 議題1:第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて

《柏女会長》

議題1についてご意見・ご質問を頂戴したいと思います。

みなさんからご意見が出る前に、私から1つご質問をさせていただきます。市では資料1記載のとおり計画には6つの基本目標があり、これがいわば計画の骨組みだと思っています。それに対し、資料2進捗管理シートの目標やカテゴリの振り分け(資料1・P3)も6つに分れていますが、必ずしも一致していないように思います。基本目標により計画が6つで構成されているのならば、振り分けも6つになると思うのですがどうしてでしょうか。

《事務局》

基本目標と事業のカテゴリ分け(資料1・P3)については、基本目標の中で更に事業の分けをしているようなイメージです。基本目標の中に、各事業がぶら下がっており、それらをさらにカテゴリ分けしております。

《柏女会長》

外面的には6ジャンルで、事業の振り分けは6カテゴリですから、6×6のマトリクスになるということですか。

《事務局》

ご覧いただいている資料2進捗管理シート(P1)では、資料1の基本目標1「子育てを支援する地域づくり」を抜き出して書いています。(1)～(3)は基本目標にぶら下がっている個別事業をまとめたものです。この(1)～(3)ごとに相談や普及啓発等のカテゴリ分けをしており、基本目標を崩さない形でまとめていきたいと思っています。

《柏女会長》

わかりました。他の方、何かございますか。

《藪本委員》

2点ございます。

1点目は、基本目標の下に事業がぶら下がっているとのことですが、今回の資料はあくまで例だから、全部網羅されていないということよろしいですか。資料1の基本目標1「子育てを支援する地域づくり」の中には(1)～(4)がありますが、資料2進捗管理シート(P1)には(1)～(3)までしか記載が無いのは何か理由があるのですか。

《事務局》

藪本委員のおっしゃるとおり、例で資料2進捗管理シートを作らせていただいております。まず子ども家庭課で担当している事業を抜き出し、部会でお諮りするにあたりアウトラインを書いている状態です。

《藪本委員》

わかりました、大枠を書いているということですね。実際は130事業が載ってくるとのことですね。

2点目は、資料2進捗管理シートは大枠の俯瞰的なものなのかもしれませんが、一番上の1だけ言うと、なぜそのように目標を設定したか、なぜそのように評価したのか、その辺りのバックデータ・経緯がわかりづらいです。おそらく確か、情報政策・改革改善課の方で評価やり方があったものを変えられていると思うので、事業毎にサブシートができるという理解でよろしいですか。

《事務局》

各事業へのサブシートという点ですが、流山市の総合計画に市全体の事業評価というものがございまして、それが直接的且つ具体的に、個別計画にまで下りてくるかという、言い方としては下りてくるのですが、細かい点については、個別計画である子ども子育て支援総合計画の方で見ていくことになります。

部会にあたっては、担当課において既に持っている指標を使うのか、もしくは持っていないので新たに指標を作っていくのか、またはアウトカム評価や全体の総合計画の中の評価と一緒に見ていくか、というところを一緒に議論させていただき、アドバイスいただければと考えています。

《藪本委員》

わかりました。

この中の委員から出てきている話を集約すると、「なぜその目標設定なのか」「実際の評価に対しての根拠が不明瞭である」ということが指摘されていることなので、その数字を落としてもいいのですが、その根拠を計画にするような作りにはしておかないと、同じ話の繰り返しになるかなと思います。

《柏女会長》

ありがとうございました。

事務局として評価方法を変えるべく、各課や総合計画との整合性を図りながら、お示しいただいていると思います。

他の方がいいがでしょうか。

《手塚委員》

私は行政に勤めたことがなく、行政の評価の仕方・限界というのを存じ上げておりません。民間で働き、目標設定や評価の振り返りってこうするものだという感覚で話してしまうことをご容赦いただければと思います。

まず1点目に、資料2は改善予定のシートということでよろしいでしょうか。見て思ったのは、何がどう変わったのか分からなかったというのが正直な感想です。というのも、今までの委員さん達の話を検討するなら、①市が行政として行うこと、②市と民間が協力して行うこと、③市民が自発的な活動によって行うこと、という3つがはっきり分かれていないと、評価の仕方は違うだろうなと思っています。

2点目は、定量と定性という意味で、数字だけでは追えないものがあるだろうなと思っているので、定量の指標・定性の指標を分けられた方がいいと思います。例えば、DV・虐待の問い合わせ窓口を作ることによって相談件数が増えたというのが定性で、虐待しているという匿名の電話件数が増えるのは定量だと思います。定性の件数が増える・定量の件数が何件かかかってきたというのがあればいいのかなと思います。件数は最後の結果だと思うので、今期中には結果が出ずとも、振り返りをするためにも両方あるべきなのかなと思います。

3点目は、評価はAとかBとかSとか出すと思うのですが、例えば、予定より上手くいけばS、基本的なラインをクリアしたらA、予定よりうまくいかなかったらB等と大きく最低でも3つにやっておかないとだめだと思います。全部達成するのは無理だと思うので、目標を高めにおいたうえで、できなかったとしても、どこまでできなかったのかわかる必要があると思います。

民間として大変なのは、その設定をどうするのか、上司が部下に対してどう設定するのが仕事の全てだと思いますし、部下としては終わった後良かったのか悪かったのか振り返って、もっと上を目指していくよう振り返りにパワーを割けるようにしたらよいと思います。

《柏女会長》

ありがとうございました。

3つ基本的な点について、ご指摘をいただきました。お手元に配布させていただきました東京恵と子ども・子育て支援事業支援計画の評価については、定性と定量の組み合わせについて、以前からかなり議論して平成29年にとりまとめました。このように、定性と定量の両指標で見ていくということは大事な点だと思います。

A～D の評価基準は、今後も使いますか。資料1、2には記載が無いように思ったのですが…。

《事務局》

何をもって A～D とするのかについては、これまで曖昧であったところがございます。資料1の④(P3)で事業評価の実施に触れさせていただいているのですが、例えば、事業を6つにカテゴリ分けすることにより、普及・啓発に対して A～D つける方法と、施設の整備で A～D つける方法では、考え方が違うと思います。そのため、カテゴリ毎に基準を設け A～D をつけられるよう細分化した指標を作りたいと考えております。

《柏女会長》

各段階における評価基準を設定するということですね。いずれにしても、その事業評価において、A～D 評価は引き続き行うということがわかりました。東京都の場合、それは無いですが、これも一つの方法かと思います。ありがとうございました。

手塚委員の1点目については、ジャンルがそれぞれにわたってくるだろうと思います。それぞれのジャンルに、行政が中心になるもの・民間の力を入れるもの・市民の自発的な力が遂行していくものに分かれると思いますので、そういった分け方があるということも大事なことだなと思いました。行政として、どこをどのように進めていくべきか、進め方の規模が違うと思いますので、そこをどう考えて評価の中に入れていくのかという視点も大事だと思いますので、部会等の議論の中で進めていただければと思います。

他の方がいかがでしょうか。

《田中委員》

定量と定性というお話がありましたが、私たちは NPO として活動している中で、相談事業を行っているのですが、行政にいく相談と NPO が受け取る相談を、どんな風と一緒にやっていけるのかと考えております。今までは、市民団体の中だけでの教育等できることはやってはきましたが、行政に対して「現状はこうです」と伝える機会は

あったとしても、それをどんな風に市民活動と行政が一緒にやっていけるのかずっと考えてきました。行政と市民団体が、定期的に対話する機会を設定して、こういう実績があるならこういう市民団体をお願いしようとか目標値等の設定ができれば良いなと思います。例えば予算をつけることができれば、目標値に反映できるのかなと思います。

《柏女会長》

大事なことだと思います。どれだけ市民や市民団体と協働したかという、手法の評価を、この中で取り入れられないかというご提案だと思いました。どこまでできるかわかりませんが、今後のディスカッションの重要なテーマではないかと思います。ありがとうございました。

他の方がいかがでしょうか。

《手塚委員》

資料2のP3、基本目標6「(4)子どもの貧困対策の促進」を見た時に、成果目標が「子どもの育成環境を整えて、貧困に対する対応ができている。」となっていて、指標に「流山子ども食堂ネットワークの加盟団体数」とありますが、実際11団体あっても、活動しているところは2団体であり、残り9団体は新型コロナウイルスの影響により活動休止しています。この状況では加盟団体数だけでチェックしても実態がどうなのか。チェックしている箇所が違いますかというのが大きな疑問です。この指標をどうやって決めるのかがすごく大切だと思いますが、そうは言っても決めきれないというものは定性の方で考えれば良いと思います。例えば新型コロナウイルスの影響で、11団体が2団体に減っている理由は、みんなが公民館で子ども食堂をやっているため、公民館を閉鎖しているため活動できなくなってしまったことが問題です。そういったことがこの指標には出てこないの、例えば IH キッチンを配布することによって、青空で引き続き活動を推進するとか、この表では一切答えがでてこないなと思います。11団体登録しているからいいやとなっちゃって、2団体活動しているからいいでは推進されてないですねと言いたいです。定量だけでなく、定性を増やすっていうのもそうですし、実態に合わせて評価できるような指標の作り方の案は持っていないけれど、実際サポートできているのか、視点がずれていると思いました。

《柏女会長》

ありがとうございました。

《事務局》

指標を加盟団体数としたのは、この会議にあたってこの指標を入れてみたらどうか

という案であり、突き詰めて決定したものではございません。加えて資料自体も補足をさせていただきたいのですが、手塚委員からおっしゃっていただいた子どもの貧困対策のところは、同資料の向かって右側に「↑」があります。例えば、加盟団体数を指標にするのであれば、増えれば増えるだけ良いし、減るのは良くないというところで、目指すべき方向を意味しています。逆に同じページの「118 虐待に関する相談の充実」の様 실제の数値を入れられるものと、他の事業のように増えれば増えるだけ良い、減れば減るだけ良い、横ばいが良いというものがありますので、手塚委員の意見を取り入れながら、指標によって数字だけではないものを、こういう形で取り入れていきたいと思っております。

《柏女会長》

ありがとうございます。

《手塚委員》

例えば118の虐待で言えば、虐待しそうであるという相談と、虐待しているという相談は全然別のものだと思っているので、目標設定の置き方にパワーをかけて考えないと、今の在り方では結果が出てからじゃないとわからないのかなというのが、私の質問とは別の意見です。

《柏女会長》

ありがとうございます。

《田中委員》

質問なのですが、子どもの貧困対策に子ども食堂ネットワークを書いておりますが、市として、例えば金銭的なもの等何かサポートをしていますか。

《事務局》

現在のところはございません。

《田中委員》

私の認識の中では、子ども食堂は民間でやっています。それを目標値に入れるのであれば、市から補助を入れないと、ここに入れてはいけないと思っております。

《柏女会長》

これは市として補助してないのですか。

《事務局》

支援の仕方として、補助はしていません。

ネットワークの巡回ということで、定期的に会議に出席し、市から情報提供または逆に情報をもらう等、市が協力できるところはしております。

《柏女会長》

国の方で、いくつかの事業を組み合わせながら補助できる通知が出ています。国、県、市が負担割合をわけて補助する事業があるはずですが、流山は取り組んでいないということであれば、今度検討されると思います。

《手塚委員》

私も子ども食堂ネットワークに加盟している団体の一つなのですが、基本的にはフードバンクを運営されていらっしゃる方が積極的に自分たちでネットワークしながら活動されていらっしゃいます。それを市の評価に入れているのを見たので、市で行うもの、民間で行うもの、市民が行うものをわけないといけないと思いました。

《柏女会長》

子ども食堂ネットワークに市がどれだけ応援したのか、その応援度合いがA～D評価にならないといけないので、数そのものは評価にならないので、整理をした方がいいですね。この資料は例示として出してくださったものだと思うのですが、そういった視点で見ていくことが大切かと思います。

私からも意見なのですが、アウトカム評価については、例えば資料2の事業番号118をみると、「街づくり達成度アンケートにより」とありますが、アンケートは毎年やるわけではありませんので、おそらく3年の見直しの時とかにアンケート調査を行って、そこでアウトカム評価を行っていくのが現実的なのだろうと思いました。

毎年の評価はアウトプット評価で、定性評価と定量評価が中心になっていくのだろうと思いました。ただ、流山市の子ども・子育て会議では、毎年のところではアンケートをお配りしたり、正式な市がやるアンケートというよりは、それぞれの拠点等で回答してもらったりとか、インタビューをしたりしたこともあるので、そういう小規模な定点的なアウトカム評価を工夫してもいいのかなと思いました。部会等で検討をしていただければと思います。

他はどうでしょうか。

《手塚委員》

部会も含め、来期話されることなのかと思いますが、申し送り希望に近いですが、そもそもこの事業内容には、子どもの最善に利益をサポートするというのが事業に紐づいていると思うのですが、以前ここでお話があったように、子どもにどんな風に育て欲しいのかビジョンが無いまま、事業がいっぱい走っている状態だと思います。来期この評価を変えて、指標を見直すタイミングでは、きちんと言語化されていることを望みたいと思います。

《柏女会長》

次期の子ども・子育て会議では、中間見直しをすることになっていて、そこに子どもの貧困対策もしっかり流山市の計画も盛り込んでいくという流れになると思います。

千葉県の子どもの貧困計画におけるアウトカム評価には、子どもを対象として「将来のために頑張りたいか」「大学進学またはそれ以上を希望」、「自分のことが好きだ」などの質問項目から自己肯定感や将来に希望を持てるということを測定し、その割合を増やしていくということが目標に盛り込まれています。流山市もどういった子ども達に育て欲しいのか子ども像をいれて、子ども向けのアンケートを作成するのもいいのかなと思いました。

他よろしいでしょうか。

《吉川委員》

これらの資料に書かれている指標というのは、関係しているところしか目標値を上げていないですか

《事務局》

今回の資料は、市の総合計画の指標として使われているものもありますし、案としてお示しするために提案として入れ込んだものもあり、そういったものが混在しています。

《吉川委員》

担当課が、目標としてやっているというわけではないのですね。

《事務局》

今回は、子ども家庭課の事業だけを抽出して作っています。他の係の事業についてどう評価したらよいか迷ったものもあり、そういったものも含め記載されています。

《吉川委員》

今後評価するにあたっては、全ての項目についてカテゴリ分けされ、成果目標と指標が示されたものが資料としてこちらにいただけるということでしょうか。

《事務局》

指標の部分なのですが、基本的には第二期計画を作るにあたって、来期計画の事業評価を行ったのが昨年12月や2～4月の会議でした。基本的にはその指標を入れ込ませていただいているので、前年からの引継ぎですとか、前年からの経年という意味では、こちらで見られる状況になっています。ただ行政の評価の仕方としては、やはり最終的には総合計画の方に紐づいて、市として一体的な計画の推進を図っていかなくてはいけないため、そう考えた時に、はたしてこの指標でいいのか、または、自己評価の指標になってしまっていないかというのを、部会やこの会議の中でご意見いただいて、直すところは直し、経年経過をみていくところはみていくというような考え方でやっていきたいと考えております。

《吉川委員》

わかりました。ありがとうございます。

《藪本委員》

確認なのですが、事業によっては、目標の指標自体を使わず、過去の経年比較ができないということもこれから議論していくのだと思いますが、それは担当課としては、大丈夫だということですか。

《事務局》

そういう場面も出てくると思っていて、そこは正直ベースで申し上げますと、行政としてもともと指標として数字を持っているものと、また別のものとなるとダブルスタンダードになってしまう恐れがあるため、ご意見いただければと思っています。

《柏女会長》

従来からの継続性もありますので、深い両側の谷の間の尾根の上を歩くイメージもありますけれども、できるだけ良いものを作っていければと思います。

ありがとうございます。とてもよい意見がいただけたと思います。特に事業評価だけでなく、手法に対する評価の必要性は、行政にとっても子ども子・育て支援事業の推進の在り方にとって、とても大切なことだと思います。そういったご意見をいただくことに感謝申し上げたいと思います。

以上で、他に意見が無ければ、従来から話が出ている部会を今後設置し、議論を進めていくことについて、事務局の方からご説明いただきたいと思います。

《事務局》

今後の評価の仕方につきましては、5名程度の少人数の部会を設置し、集中的に審議をしたいと考えております。月1回程度を予定しており合わせて、3回程度の審議を予定しております。年が明けましたら、委員の皆様には部会でまとめた評価についてご報告したいと考えております。

部会の委員の選定につきましては、まず立候補を募り、いらっしゃらない場合は、流山市付属機関に関する条例第6条第2項の規定により、「部会に属すべき委員は、会長が指名する」とあることから、柏女会長に一任することとなります。以上でございます。

《柏女会長》

ありがとうございました。では部会員の選定にあたり、どなたか立候補される方は、挙手をお願いします。

(全体を確認)

立候補者がいらっしゃらないようなので、事務局から説明があったとおり、流山市付属機関に関する条例第6条第2項の規定により、「部会に属すべき委員は、会長が指名する」とあることから、私が指名させていただきます。

中山委員、藪本委員、橋本委員、田中委員、吉川委員、以上5名の方をお願いしたいと思いますが、5名の方よろしいでしょうか。

(全体を確認)

それでは、5名の方々、部会員をよろしく申し上げます。

次に議題2その他について、事務局から説明をお願いします。

《事務局》

(説明)・第2期障害児福祉計画について

・リモート会議の開催に係るアンケート結果について

《柏女会長》

ありがとうございました。前回議論いただいた障害児福祉計画について修正のご報告をいただきました。

何かご質問・ご意見をいただけますでしょうか

《藪本委員》

答申が終わったとのことなので、計画の策定が進んでいるだと思いますが、保育所等訪問支援のところで、前回私の方でご指摘をさえていただいた民間の事業所の活用というところで、なぜ全部削られているのかなと思いました。

先ほどの事業評価のところでもありましたが、行政の方でやるとするならこれでしょうという話なのかもしれませんが、必要量としては実際これよりも上の数字じゃないですか。現場の声としてお届けしたのに反映されなかったのが残念だなと思います。

《柏女会長》

ありがとうございました。類似の事業はたくさん行われていますので、そういったものも含めて事業化できるような検討は必要だと思います。

その他にはいかがでしょうか。

《西原委員》

前回申しそびれたものがございまして、前回の答申でインクルージョンの方向を答申で出していただき、本当にありがとうございます。そういったことを前面に出していくというのは大事なことだと思っています。前回の障害児福祉計画の中で、調査の中で気になったこととして、相談相手・相談先というのが行政の窓口が 10.4%であり、この数値をどう捉えてよいのかなど。定量的に多いと捉えるのか。本来なら、行政の窓口が前面に出てきて欲しいというのがありますので、10.4%という数字が気になりました。

《柏女会長》

ありがとうございました。当該部局の方にもお伝えいただければと思います。

《田中委員》

私達のところに相談にこられる方で、お子さんに発達障害があり幼稚園に行かせたいと希望している保護者の方がいらっしゃいます。加配があることを期待して幼稚園に相談に行っても、なかなか受入れがしてもらえないという話を聞いていて、ご苦労されているようですので、そういったことにも期待したいと思います。

《柏女会長》

ありがとうございました。その件については、過日内閣府の子ども・子育て会議があったわけですけれども、そこで私も意見を言いました。現在、第 2 期障害児福祉計

画が全国で策定されているけれども、子ども子育て支援制度の特定教育・保育施設で、何人の子どもを受け入れられる予定になるか、そういう計画を検討しているところは、ほとんどない。流山市では子ども・子育て会議で、障害児福祉計画の議論も行ったうえで計画を作ってもらったと、国の会議でご紹介させていただきました。「年度末までに計画を作るうえで、この時期が最後のチャンスであり、全国に内閣府と厚労省で連名の通知を出して欲しい。そして、全国の特定教育・保育施設で障害のある子をどれくらい受け入れられるか計画を立てて欲しい。そしてそれを集計して欲しい。待機児童も大事だけれども、障害をもった子たちが特定教育・保育施設に入れない、そういう待機児童もいるはずだ、その数も出して欲しい。」と話しました。

つまり、目標数値として、流山市の保育所における障害児の受入れ人数が71人ということになっているけれども、その数の全国を集計したもの出して欲しいとお願いしました。おそらく、流山市ではこういった数字を出していただいて、特に医療的ケアを必要とする子10名と出していただき、大変なことだろうと思います。看護師さんの配置等々を考えれば、大きな数値だと思います。こういったことをしてくれた流山市には敬意を示したいと思いますし、全国に広がって欲しいなと思います。ありがとうございました。

それでは、リモートのアンケートをとっていただいた結果の報告をお願いします。

《事務局》

(説明)・リモート会議に開催に係るアンケート結果について

《柏女会長》

ありがとうございました。ご質問・ご意見ございますか。

無いようですので、以上で本日の会議を終了します。